



社会福祉法人さざんか会法人広報誌『おーぷん第74号2017秋』

発行:さざんか会法人本部/船橋市行田2-8-1/☎047-404-1135

編集:おーぷん編集委員会(けいよう)/船橋市二和西5-10-1/☎047-411-8177

私たちの事業運営の経済的な柱である、社会福祉サービスマニヤに對する報酬、この改定に向けた議論が厚生労働省で進んでいます。そこで作られたのが「障害福祉サービスマニヤ改定チーム」であり、ここでの議論が中心となり作業が進むこととなります。5月末に第1回の会議が開かれ、来年の1月から2月にかけて報酬改定の案をまとめることが予定されています。

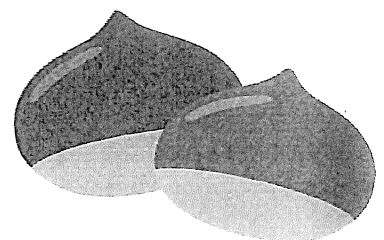
障がい福祉の世界も介護保険同様に、3年に1度の改定がルールとなり、30年度がその3年目に当たります。前回の改定では、決定されたその報酬単価について、プライムゼロとの評価が大半でした。高齢者介護の世界は、ご存知のように大半がマイナス改定となりました。

国や自治体の台所が大変厳しい状況に置かれる昨今の状況から、社会保障費全体に抑制が図られる事となり、当然障がい福祉をめぐる財源もその余波を受ける事は想像に難くありません。さて、障がい福祉サービスマニヤに係る報酬をどの様に設定していくのか。その作業の一環として、この議論に反映させるために全国組織の障害福祉関係団体等に呼び掛け、6月から7月にかけて全5回にわたりヒヤリングが行われました。対象団体は47団体に上りました。「日本知的障害者福祉協会」や「全国手をつなぐ育成会連合会」も

来春の報酬改定 議論進む

社会福祉法人さざんか会
理事長 宮代隆治

- おーぷん74号目次
- P1 「来春の報酬改定 議論進む」
さざんか会 理事長 宮代隆治
 - P3 権利擁護はいま
【特集】第51回手をつなぐ育成会 関東甲信越大会
 - P6 各事業所秋だより
・ゆたか福祉苑
・カメラアハウス
・けいよう
・のまる
・とらのこキッズ
・さざんかキッズ
・DDホームズ
 - P10 北総だより
・北総育成園
・笹川なすな工房
 - P13 法人合同研修報告
・コミュニケーション・研修
・摂食研修
・エピペン講習会
 - P15 ランプ発
 - P16 さざんか会 後援会だより





当然含まれます。この事は改定作業時には毎度行われていることなのですが、今回発言する対象団体に3点の盛り込むべき視点が示されました。

まずは「より高いサービスを提供していく上での対処方策・評価方法」であり、次が「地域において、利用者が個々のニーズに応じたサービスの提供を受けられるようにするための、サービス提供体制の確保に向けた課題及び対処方策」と続きます。

そして最後に「障害福祉サービス等に係る予算額が、障害者自立支援法施行時から2倍以上に増加し、毎年10%近い伸びを示している中で、持続可能な制度としていくための課題及び対処方策」とありました。

前2点については、私たちも事業を行う上で常々念頭にある問題でありませんが、最後の視点はどうか考えましようか。

確かに障がい福祉に関する国家予算は年々増加しています。その額は一兆円を超える程となっているよう。財源の厳しい現状に於いて或いは突出と見なされるのかもしれない。

ただ、平成15年度に措置費制度から支援費制度へという大転換が図られ、この間障害者基本法の改正、そして障害者自立支援法から総合支援法への転換もあり、各種施策はその主旨を実現すべく講じられた筈です。障がいのある人が自分らしく、納得できる生活が送れますように、そのためには地域の中でより身近にサービスが受けられる体制整備は不可欠であり、そのために予算が用意されたのでは。つまりは、障がい福祉サービスの量及び質的拡充が図られ、結果今日の予算規模になっていると解します。

長い間この仕事に従事して、それに対する満足のいく報酬を実感したことはありませんでした。これは高齢者介護や保育の世界にも共通したことであつたか。特に、民間施設で働く職員の身分保障について、他の産業等と比較して、見劣りすることは当然視されて来ました。その格差は、根本的には現在も是正されていません。

障がいのある人の生活も、親があろうがなかるうが、その人らしく地域で安心して暮らす、そのシステムが万全に作られるには、まだまだのレベルと思っています。そんな中に、第3の視点は報酬をこれ以上要望しても、それは無理というものですよ、とやんわり宣告されているような気もするのですが、そこをなげれば、幸いです。

こんな話も聞いたことがあります。報酬改定の最終段階、依頼を受けた力のある政治家さんが財務省に掛け合つて、報酬単価の減額阻止や報酬アップについて圧力を掛け、それが効力を発揮することもあり、と。最後にモノを言うのは政治力か…。

税金の用途は、国民の理解と賛成が基本だと思えます。障がい福祉に係る予算も、国民各位の同意によって支えられる構図が理想です。これらは共生社会の実現に不可欠のルールと考えます。報酬の決定について、過程も含めて凝視していきたいと思えます。



齊藤 幸子 園長

市政功労表彰を受賞

当法人とらのこキッズ
園長 齊藤 幸子 氏が、
平成二十九年船橋市市政功労
表彰を受けました。

長年にわたり船橋市内における
福祉の振興や増進への功績をたた
えられての受賞です。

誠にありがとうございます。

※市政功労表彰とは

船橋市表彰条例に基づき、市政の振興、公共の福祉増進などに功労のあつた人、または、市民の模範となつた人を表彰しています。(船橋市HPより)

権利擁護はいま

今回は、手をつなぐ育成会関東甲信越大会に参加した皆さんが、それぞれ得た気づきなどを寄せていただきました。日常と違う緊張や出会いの楽しさも味わえるチャンスでの感動をお伝えします。どの分科会も貴重な内容、障害のある本人のことを真ん中に深く考えさせられる会になりました。

第五十一回 手をつなぐ育成会
関東甲信越大会
平成29年7月22日

【全体会】

関プロ千葉大会に親子で参加しました。事前にいただいた引換券には名前が書いてあり、当日、息子も自分の券で大会資料と名札をうけとりました。他の参加者も同じようにしているので「みんなと同じだ!」と大人対応を味わい嬉しかったのか、笑顔になっていました。

一般的には、ごく普通の接し方なのですが、私はつい息子を子ども扱いしていたことを反省。会場では必須のトイレ確認をして、席につきました。

大会では、田上会長の挨拶のあと、千葉県障害福祉事業課長による袖ヶ浦福祉センターでの虐待、暴力による利用者死亡の事件等

の報告がありました。行政側が公の場で不祥事の話をする事は、昔はないに等しかったのですが、これも育成会の長年の活動の成果だと感じました。

休憩になると息子も列に並び、券とお弁当を引き換えていました。大会中、息子は終始笑顔で、静かに大人対応をしていました。普段は騒がしいのですよ。『息子よ、お前はたいしたもんだ♥』と心の中で褒め、参加して良かったと思えました。

「忠地洋子

カメラリアハウスハウス保護者」

★第1分科会「心に栄養を」〜共感から始まる仲間づくり〜

障害の子どもがいても自分らしく生きるための家族支援ワークショップでした。スライド、少人数のグループワーク、吉川かおり氏の講演を通して自分の気持ちに気づき、次へ踏み出す力を貰いました。参加者の感想を掲載し報告とします。(感想アンケートから一部を抜粋しています)

●グループワーク(ワークシヨップ)について*分科会でグループ

ワークがあるのは新鮮。*地域の違う方々と話し、新たな発見があった。*子供に対する今迄の気持ちや自身を振り返ることが出来て良かった。*ワークシヨップという何か話さなければいけないかと緊張したが、終わってみるととても楽しかった。*普段漠然と思っていたことをあらためて考えさせられた。*若い育成会会員の話が聞けて良かった。*あらためて人と話をするこの大切さに気づいた。

●心に栄養を*「心に栄養を」というテーマだったので、てっきり子どものことだと思ったが、「家族支援」まさに家族(私自身)のためのワークだった。*自分を見つめ直す時間だった。*「心に栄養を!」とても良かった

●気づき*「〇〇のお母さん」の役が身についてしまった『自分』がなくなっていた。*自分のことを考えることなど今までなかった。*自分のことをもっと人に話したいと思った。*「育つ速度には個人差がある」いい言葉ですね。*他の人の考えが響いてくる。*異なる意見が自分を見つめ直す



ことに繋がる。

●終っても、去り難く… *地域の保護者も参加していただけるよう活動したい。*職員として参加。施設以外で保護者の話が聞けて、勇気・元気を貰った。*フアシリレーターが元気で。他の人の話を引き出すことがスムーズなのにびっくり。*参加型なので眠くならず済んだ。*まんま隊、ファッシー隊のような活動を初めて知った。*仲良くなり、大声で笑い、話せるようになる良い分科会だった。

【赤津保子

ゆたか福祉苑保護者】

★第2分科会「ありのままを伝えたい」～障害理解を深めて共生社会へ～

このテーマに合うような活動をしてこられた「キャラバン隊」知的障害や発達障害がある子どもさんのお母さん達が、障害の特性や対応の仕方などを伝える『啓蒙公演活動』として活躍していらっしやいます。

今回は、市川市、松戸市、八千代市、座間市の皆さんが活動の効果と課題などを話して下さいました。そして、市川の皆さんの寸劇を交えたミニ公演もありました。どちらのキャラバン隊も学校や会社、市役所の研修等に公演依頼が多いそうです。そのほかにもコンビニの店員さん、警察官等、困ったときにお世話になる方々に障害特性を理解していただくよう訪問しているそうです。

初めて知ったキャラバン隊ですが、良い時間を過ごさせていだきました。

【岩本芳江

カメリアハウス保護者】



★第3分科会「計画相談で広がる暮らし」～本人に伴走する～

未就学の子どもを持つ親にはまだなじみのない計画相談と基幹相談支援センターという内容でしたので想像もつかず難しく感じた事、そして何よりもこの世代にもどの地域にもどのように浸透させて活用していくのか？という疑問が残りました。県の方に寄稿させて頂いた文章には、親が支援者の思いを知り理解をする事と書かせていただきましたが、支援者の思いも浸透と活用にな

つながるのではないかと思っています。「この制度が出来て良かった」と思える事が本人だけでなく、親や周りの支援者にも思えるようあらゆる方面の人達でもっと手を取り合えればと思っています。

【茂山久美

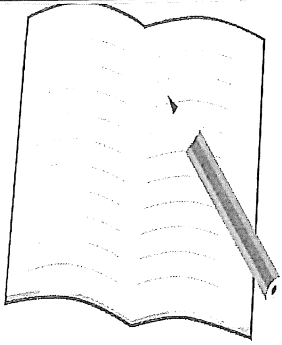
さざんかキッズ保護者】

★第4分科会「高齢化を考える」～暮らしと医療・だれに託す？～

登壇者の熱のこもった、パワーポイントを使った説明を聞きながら、本当に「光陰矢の如し」と実感しました。

我が子がこれまで沢山の人たちに囲まれて現在を迎え、ほっとするの束の間、今度は、親の高齢化や残念ながら親なきあとをどうするか？と考えなければならなくなりました。子どもの生活の基礎を支えてきた親の力が減少、または無くなるのですから大変なことです。その時「暮らしと医療を誰に託す？」難し過ぎる問題です。

これは、手をつなぐ育成会でもずっと以前からの重いテーマで、



長年みんなで力を合わせ、知恵を絞って少しずつ達成してきました。今後も「これしかない」のでは、と思います。個々の力は弱くても団結すると大きな力になります。

また、自分ながら、心がけることは何かと考えました。まず『生活習慣病を含めた疾病の予防と健康管理』。次に『本人、家族が現在お世話になっている事業所等と今後もより深く信頼関係を続ける事』

また、『代弁者である親ができる「親心の記録」を丁寧に記入しておくこと』。これらは普段の生活の中で工夫してぜひ心がけたいと思います。難題の多い将来ですが、日常生活の中で、小さな喜び、小さな幸せを感じて、また明日を迎えたいものです。

【高橋敏子 ゆたか福祉苑保護者】

★第5分科会「権利擁護を考える」
相模原事件から1年：
多様性を認め合える共生社会を目指す

相模原市の施設津久井やまゆり園の元職員により起きた事件は、今も障害者や関係団体を大きな震度で揺さぶり続けており、被害の甚大さもさることながら、障害者に対する差別や偏見に満ちた言動が大きな震源であり、テレビや新聞でこの件が流れる度に心が痛ましくなり、悲しい気持ちになる。

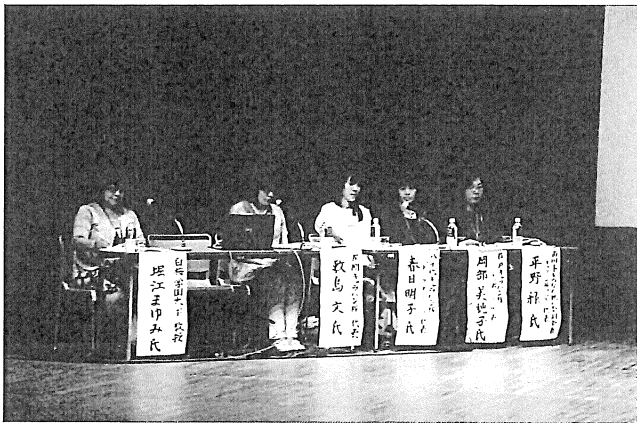
自傷や他害、パニックなどの行動障害を起こす自閉症の人には個々に支援の仕方が異なり苦勞する支援者が多いが、しかし、様々な要因を障害者にばかり矛先を向け、理不尽がまかり通っているのかと言えば、障害者が、ものを言うことがうまくできずにいて、彼らの立場で考える想像力を私たちの社会が持ち合わせておらず、この現代社会を動かしている価値観が障害者をネガティブなものとして映し出してしまっている。

障害福祉の構築に大きな貢献

をした、糸賀一男氏の「この子らを世の光に」と言う言葉があります。どんなに重い障がいがあっても、だれと取り替えることもできない個性的な自己実現をしている、見栄も欲もない障害児の無垢な存在こそが世の光にすべきであるという至言が障害者の福祉に携わる人々や私たち親を前向きに創造させてくれているのだろう。容疑者には、それに早く気付いてほしかった。

【佐久間美雪

支援学校保護者】



***** 講演会&シンポジウムのご案内 *****

第1部 講演会

問われる共生社会 ～津久井やまゆり園の再生をめぐる議論から見えてきたこと～

講師：在原 理恵 氏 (神奈川県立保健福祉大学准教授)

第2部 シンポジウム

開催日時 11月11日(土) 12:30~16:30 (受付 12:00~)

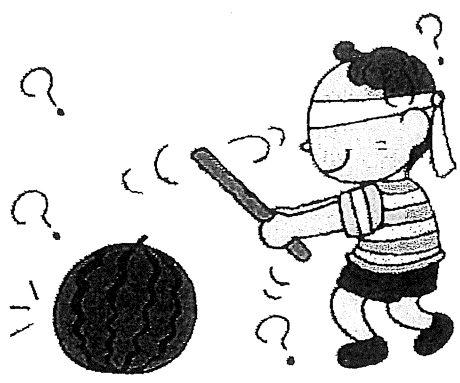
場所 船橋市保健福祉センター 2階 大会議室 参加費500円

※お申込み・お問い合わせは <ふらっと船橋>まで TEL:047-495-677

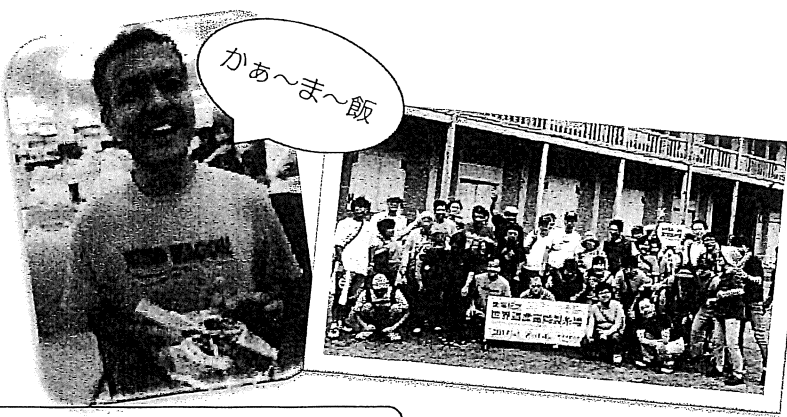
ゆたか福祉苑

夏だよ

皆で近くの公園まで出掛け、真っ青な空の下、レジャーシートに座ってお茶会を行いました。
毎週末行っているお茶会ですが、ピクニック気分でお出掛けしたこの日は、皆さん特別に感じて頂けたようで、素敵な笑顔で楽しませていましたよ～！



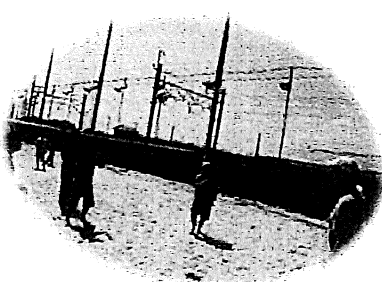
ゆたかには4つの活動班がありますが、今回はあじさい班の活動をご紹介します♪
今年の夏は、苑でスイカ割り大会！「スイカ」に見立てた風船を、最初は恐る恐る、徐々に激しく「えーい！」笑顔がしゃぼん玉のように弾けていました☆



かあ～ま～飯

9月恒例バーベキュー

3回目となる9月開所日恒例、BBQ！！4グループ合同で行うのでとてもにぎやかで盛り上がりました。
天気にも恵まれました！



カメラリアハウスの夏の行事と言えば、毎年恒例の一泊旅行です。
今年の旅行先は「群馬県」 天候に恵まれ二日間楽しめました。
伊香保グリーン牧場や世界遺産の富岡製糸場の見学、軽井沢銀座で食べ歩きなど盛りだくさんでした。二日目の昼食は峠の釜めしでした！
何はともあれ、無事に行って来ることが出来て良かったです！

夏便り



カメラリアハウス

は ら い み ん

〜秋だより〜

市制公園に行ってきました。
暑くてヘトヘトでしたが『SL
の前で写真を撮ろう!』と声を
掛けると、元気が戻ってきたよ
うでいっせいにポーズ!息もピ
ツタリでした。

いつも一緒にいる仲間で気心
通じているようですね。



みんなの記念撮影



ジュースどれにしようかな



貝柄山公園を散歩中のご利
用者さんです。今日はお買い物
の日、ひと周り歩いて到着!
出発前から楽しみにされて
いたようで自動販売機が見え
るとニコニコです。暑い中、沢
山歩いて喉もカラカラ!
早くジュース飲みたい〜と
いう感じでした。

の ま る

今年夏らしさを感じる日は
少なかったですね。のまるでは
利用者さんのために少しでも
夏を愉しんで頂けるよう、花火
大会を開催しました。

日中の花火大会ではありま
したが、手持ち花火のきれいな
炎にドキドキしつつも笑顔が
みられました。



クライマックスには打ち上
げ花火の用意もされており大
盛り上がりでした。

花火が終わると冷たいラムネ
で乾杯し、クールダウンしてい
ました。次のイベントもみなさ
ん楽しみにしていってください
ね。



さざんかのキッズ



涼しい日が続いており、夏も終わりに近づいてきましたね。とらのキッズの夏は、プール・全身で絵具遊び・夏祭り・土曜参観等今年も楽しいことが盛りだくさんでした♡



夏祭りは、みんなの製作が祭りの雰囲気を引き立てる中、ボールサーフィン等のゲームコーナー、かき氷、ヨーヨー、宇宙の部屋と、各コーナーでみんなの楽しそうな声や笑顔がたくさん見られました♪そして、わんぱくルームにはトトロの森をテーマにした巨大迷路が登場★大人気で、夏祭り後もしばらくみんな楽しんで遊びました。大はしゃぎで遊ぶ子ども達の姿に、私達職員も嬉しかったです！他事業所の皆様のご協力、保護者の皆様のご参加ありがとうございました。

先日はクラスごとにワゴンに乗って、さざんかキッズにある夏祭りのために期間限定で作られた風船の海へ遊びに行ってきたよ！まず、クラスのお友だちとワゴンに乗ることに特別感があり、ワクワクした様子の子も達々到着してたくさん風船を見た時のキラキラした目と、今か今かと身を乗り出して遊びたい気持ちを表現する姿はとても可愛かったです♡埋もれたり、走って風船が舞うのを楽しんだり、汗をかくほど全力で遊び、特別な一日となりました！



さざんかキッズ

りんごあめ

～夏祭り～

8月5日(土)さざんかキッズ第3回目となる夏祭りが催されました☆

今年は新しい試みとして：ひんやり冷たいスライムコーナーと、出店のあるわんぱくルームでは、子ども達が製作した紙コップ花火で遊ぶコーナーを設けてみました！皆遊びに来てくれるかな？とちょっぴりドキドキでしたが、どちらのコーナーもたくさんの方が来てくれました♪



その他にも、ヨーヨー・シユース釣りや職員手作りのりんご飴(マラカス)、そしてまっくらの部屋では花火の映像が流れていたり：毎日暑い日々でしたが、さざんかキッズの夏祭りであり、夏を感じて頂けたのでないでしょうか☆

いつもと違う雰囲気の中でしたが、お家の人と一緒に過ごし、たくさん笑顔を見せてくれた

子ども達にたくさん元気をもらいました♡

☆お手伝いをいただいた他事業所の皆様：物品販売などご協力ありがとうございました。

☆保護者の皆様：ご参加ありがとうございました。

～水遊び～

今年は雨が多い夏でしたが、ちょっとした晴れ間を狙ってたくさん水遊びをしました☆築山用のスプリンクラーで楽しむクラスもあれば、玄関先の日陰でゆったり遊ぶクラスもあり、さざんかキッズの色んな場所から賑やかな声が響いていました♪



ホーム便り

新管理者紹介!

「皆さん、対話しませんか」
DDホームズの管理者に新しく
就任しました渡邊隆宣と申しま
す。どうぞよろしくお願いま
す。あまりに荷が重たくてかなり
のプレッシャーを感じているのは
確かですが、背伸びせず自分なり
のペースで一一つ目の前の仕事
に向き合っていきたいと考えてい
ます。

グループホームはそれぞれが独
立した形なので、横の繋がりが持
ちにくい面があるかと思いま
す。少しは橋渡しの動きができ
ればとこの頃思っています。

しかし、まだまだ頭で考えてい
るようにはいかないのも事実で
す。具体的には職員同士の対話の
機会を更に持つべきだと考えま
す。そう思うに至ったのもある一
冊の本に出会ったからなのです。
読むうちになかなか爽快で、且つ

納得させられることばかりで。気
がつくと何度となく読み返してい
るのでした。

その本は岩波新書が今年1月
に出版した「対話する社会へ」が
タイトルの経済学者、日本女子大
学教授の暉峻淑子（てるおかいつ
こ）先生の本です。その中で対話
とは討論とは違い、お互いが人格
を認め合い、対等な立場で話し言
葉を告げた人が、次は聞き手にな
る双方向のやり取りだと言ってい
ます。

対話を重ねるとき新しい何かが
生まれるとのこと。対話がないと
結局は力で進めようとするので、
ドイツには「対話が続いている間
は殴り合いが起こらない」との言
葉もあるようです。疑問に思うこ
とは日常的に話し合うということ
が、社会の健全さを支える。逆に
対話がないことは、権力者にとっ
ては都合がよいのですと、どこか
の国のトップや政治家に投げかけ
たい文面もありました。

この対話についての考え方は、
私たちの仕事をする上においても
大切なキーワードになってくると

考えます。福祉は「人」で、日頃
から健全で平穏な心持でないとい
より良い支援に結びつかないと思
います。何かに苛立っていたり、
心的に不安定だと顔の表情が険し
いものになり、相手に投げかける
言葉も刺々しくなるものです。感
情的になる傾向の人、またそうで
ない人も、まさしくこの対話が全
て解決し、より良い支援へと繋が
るはずで

だから今こそ対話しませんか？
私は皆さんと向き合って、そのよ
うな場面を持ちたいとまじめに考
えています。私自身の相談ことに
もぜひ耳を傾けてほしいのです。
対話をするので人は分かりあえ
るもので、ちょっとしたボタンの
掛け違いで誤解していたこともす
ぐに解決されることでしょう。相
手の立場に立って考えるように努
めれば…。私は人を否定すること
は正直好きではありません。皆さ
んとわかり合う中で、この仕事に
携わっていききたいと切に願って
います。大切な仲間だから。

渡邊 隆宣

ゆーもあ・にんじにん
から始まります!

グループホーム事業所では、利
用者のみなさんにより安全安心し
た生活を送っていただくために、
今までホーム担当の職員が担って
きた通所施設との往復の送迎業務
について専属運転手・添乗員の導
入を進めていく
事になり
ました。

14人乗り
ハイエースです!

運転手
添乗員
後藤 清子

まさに新車の
匂いです!



北総の里だより

北総育成園職員夏期研修報告

沖縄への旅(千羽鶴届け)

平成29年8月18日(金)～20日(日)

【報告者 保科 智子】

毎年北総育成園では、平和を考え、平和を願い学ぶ大切な機会として、利用者職員で千羽鶴を折り、長崎・広島・東北そして沖縄へと四千羽の鶴を届けています。それらの活動は、「研究委員会」が責任を持っていきます。今年は私が千羽鶴を届ける役目を頂き、みなさんの代表として沖縄を訪れてきました。

8月18日(金)は羽田空港から沖縄へ。沖縄の南部にある平和祈念公園へ北総のみんなが折ってくれた千羽鶴を届けてきました。公園は那覇から30分位でしたが、その前にひめゆりの塔を訪れました。入口にある豪の跡の前に立

つ慰霊碑に献花し手を合わせました。資料館の中へ入ると一気に張りつめた空気になり、第2次世界大戦の事、日本の戦争への参加のこと、沖縄戦の経緯などの説明があり、戦前の女学校の様子や戦時中の生徒たちの暮らし、役割、体験談などが紹介されています。女学校で楽しい学生生活を過ごしていた生徒たちに戦争への参加の知らせが入り、がらりと生活が変わったことはどんな思いだったのだろうか？明るい未来を夢見ていた生徒たちの将来がなくなることや、家族と離れて戦争に携わっていた時の思いは？等と考えると胸が痛くなる

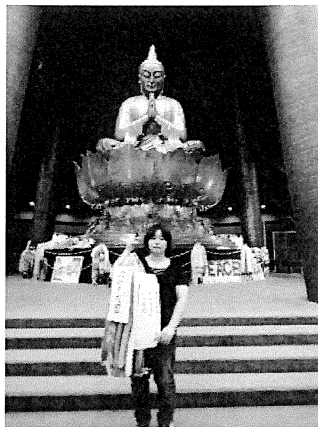
ばかりでした。また、勉強や裁縫、書道などを学んでいた普通の女子学生が、戦争になったことで戦う訓練や負傷者の手当ての仕方等を身につけていったという事を知り、驚きました。まだ15歳、16歳という若い女性が傷を負った大人を手当していたというが、現代の学生に置き換えると考えられないと思います。そして、死体処理まで行わされていたという記述があり、悲惨で酷い日々だったことが想像されました。私はただ手を合わせて拜むことと、戦争のない平和な暮らしが続くことを願ってきました。資料館の外には各地から届けられた千羽鶴があり、どの地からも平和を願っていることを感じてきました。



そして平和祈念公園へ。すれ違ふ方々は外国の方(アメリカ系)が多く、世界からも平和を願う方々が訪れていることを知りました。平和祈念公園は私も何度か訪れたことがありましたが、祈念堂へ入るのは今回初めてでした。長い階段を上り、公園を一望できる高い場所にたつ平和祈念堂。中へ入ると沖縄平和祈念像が安置されており、上を見上げると星空が広がったようにガラスで作られていました。ここは平和学習や慰霊行事なども行われる場としても使われているという。祈念像の足元に千羽鶴がいくつも納められており、各地からいろんな形の千羽鶴がありました。北総の千羽鶴もその中へ一緒に納め、みんなが折ってくれた平和の願いと共に手を合わせて平和を願ってきました。

千羽鶴を納めた後は平和の礎(いしじ)へ。戦争で命を落とした方々の名前が刻まれている平和の礎。沖縄の住人も、各地から戦争へ参加した方も、軍人も。国籍を問わず名が記されている。前回訪れた時に「〇〇の長男」「〇

〇の子」という記されかたがあることを知ったが、本当に多くの人々が亡くなられたことがわかる。毎年新たにみつかった方々の名も記しているが、2017年度の場所も名が刻まれており、未だに亡くなられた方々が出てきていることに驚いた。「冥福を祈り手を合わせてきました。



今回は北総の代表として千羽鶴を届けることができた。改めてひめゆりの塔や平和祈念公園を見直すとまだまだ知らなかったことに出会える。そして戦争の悲しさや恐ろしさ、酷さを感じ、命の大切さを感じられる。今では沖縄はきれいな海が続く戦争は考えられないが、実際にあった出来事として受け継がれ、平和を願っている。8月は慰霊の月ということで、テレビでも戦争や原爆の話や映像を多くみることがあ

った。その中でアメリカ兵が「当時は空から何も感じずに指示されたまま爆弾を投げていたが、地上では悲惨な現場になっていたことを今、見に来てわかった。自分は何んてことをしていたんだ」と嘆いていた。誰もが戦争は悲しい思いを抱えてしまうものだと感じた。私たちは平和の大切さを願うことくらいしかできないかもしれないが、できることを続け、平和な暮らしが続くよう願っていききたいと強く感じた旅でした。

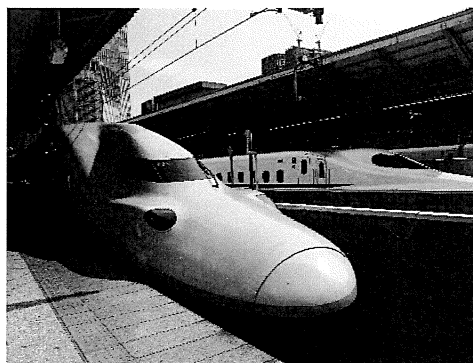
北総の職員は、利用者さんが帰宅する夏休み期間を利用して自主研修に出かけます、自身の見聞を広げ、心を耕し、そのことが少しでも利用者さんへのよりよい支援につながればと思います。これからもよろしくお願ひします。



笹川なづな工房
十五周年記念行事
金沢研修旅行 実行委員長 園城寺 央

平成二十九年九月十四日～十六日まで十五周年記念行事として金沢へ研修旅行を実施しました。まず、今回行先が金沢になった訳ですが、施設という枠にとらわれずに、地域と共存する街づくりを行うシエア金沢を見学したいという事と北陸新幹線に乗るという事をメインで考え計画してきました。従来の施設のバスでの旅行との大きな違いは、公共の交通機関を多く利用するという事です。合計三十八人での東京駅構内の移動や、タクシーや路線バスを利用しての移動もあり、また徒歩で人混みの中を時間に制限がある中で動くので、事前に職員間で想定される事や移動の順番等シミュレーションを重ねながら準備しての出発となりました。

さて、今回のメインとなった北陸新幹線とシエア金沢の見学ですが、新幹線は往復「かがやき号」に乗車しました。



利用者さん、職員を含め殆どの方は利用が初めてで、ホームに着き、写真を撮ったりしながら乗車を待ちわびていました。車内の座席は前後のスペースも足を延ばせる程広々としていました。金沢駅までの道中一時間半は、ゆっくり過ぎたり、流れる風景を車窓から眺めたり、仲間との会話も広がり、それぞれがリラックスして過ごす事ができ大満足な時間でした。

シエア金沢では、到着してから施設内で経営するレストランで幕の内弁当を頂きました。館内は木造作りのバリアフリー構造で広々しており、木の温かいぬくもりの中でのご飯は格別でした。その後は、清水施設長さんに法人や施設の立ち上げに至るまでの説明等をして頂きました。“ごちゃ混ぜ”という理念の基、総面積一万一千坪の敷地内には児童入所施設、高齢者施設、美大生向けのアトリ工付き住宅、産前産後の子育て支援、スポーツ、アウトドア、キッチンスタジオ、レストラン、温泉施設、その他商業施設があります。障害の有無関係なしに子供から高齢者の方々がシエア金沢を通して時間を共有しています。



“ごちゃ混ぜ”にする事で大きな利点としては異世代交流や助け合いができる事にあるのかと考えました。しかし、助け合うと言っても個人のプライバシーやコンプライアンスが重んじられる現代で、なかなか本音で語り合えない事や見て見ぬふりをする事があると思います。どこまでが親切で、どこからがおせっかいなのか、そのあたりの取り扱いが難しくなっている中、古き良き時代の地域のコミュニティの再生を図るという大きな目標は決して簡単な物ではないかと思いますが、自分自身も地域で生きる一人の人間として共鳴を受けました。そういった中で良い関係を維持する為に世代ごとの役割やそれぞれが必要とされる、持ちつ持たれつの関係性がある事は非常に良いと思います。

自分なりの解釈ですが、子供は元気を、施設内で働く障害を持つ方はひたむきに働く姿を、学生は若さを、大人は行動力を、年配の方は知識と経験を、それぞれに無いものをシエア金沢を通して補い合う事ができているのではないかと思いました。

自分達も利用者さんを支援する上で日頃から施設長に言われている事があります。自分達はスーパーマンじゃない、一人で全ての事をやろうとする事は決して良い事ではなく、施設、家族、行政、関係機関とそれぞれが持っている力を出し合い、よってたかって支援するという事です。これはシエア金沢の関係性にも通じる部分があり、ひとり一人が出せる力は限りがあるが、持てる力を少しずつ出し合い、それが束になれば大きな力になる。それは良い関係を維持していく上で非常に大切な事だと改めて考えさせられました。

日頃から施設見学を希望される方が多いとの事で時間は限られていましたが、大変貴重な時間を



を過ごす事ができました。一泊目のシティホテルでの宿泊の体験や、二日目の二十一世紀美術館見学、路線バスを利用した金沢市内グループ行動散策、三泊目の加賀温泉郷での宿泊と盛大な宴会、最終日では三大名園の一つ兼六園の見学と、この三日間、体調を崩す方もいなく最後の一人一言では「なすな工房に入って良かったです」という感想まで聞けました。利用者さん、付添いの保護者の方、職員、三十八人それぞれが出せる力を出し合い成功する事ができた旅行であったと思います。皆さんに感謝いたします。

法人研修 報告

さざんか会では船橋圏内の事業所が集まって年に数回の全体研修を行っています。目的としては「能力開発による利用者への支援の質の向上」そして「他事業所を含めた職員間のコミュニケーション」があります。今回行われたのは前者の範疇で「コミュニケーションマナー、好感と信頼を伝えるマナー」おそらく初めて専門の研修業者に依頼したものでした。われわれ施設職員は人と接することが主だった仕事なのですが社会人としてのコミュニケーションはできているだろうか？ほとんどの職員はうなずけない問いであるように思います。利用者のみならず、親御さんにおいても「あれ、そういう対応？」と思われるようなことがあったかと思えます。それではいけない、基礎から学ぼうということが今回の主旨でした。

恥ずかしながら20年社会人をしていく私自身学ばされることがたくさんありました。若い人たちはさらに学ぶことが多かったでしょうしベテランの方々は改めて襟を正すことができましたのではないかと思います。みなさん、研修を受けた職員とお話してみてください、コミュニケーション力がぐんと上がっているはずですよ。

ねー受講したみなさん。

【カメラアハウス管理者

藤敷正英】



講師の説明をしっかりと聞いて



名刺交換もばっちり!?



正しい姿勢でご挨拶

～職員の感想～



今までは、食事における発達段階をただ頭に入れており、「成長に応じて段階を追っていくもの」と簡易的に考えていたが、すり潰しの段階から食べられるようになるまでに、歯茎から歯が伸び始め、下では歯茎や顎が支える働きを始める等という移行までの動きを知ることが出来ました。

日常行なっている「食べる」という無意識の中にたくさんの身体の意識（目で食材を確認する、舌や手の動き…等）があったことに驚きました。



定型発達の段階を踏まずに食機能の獲得が行なわれず食に様々な問題を抱える子ども達と関わる仕事に携わる者として、発達段階を正しく理解し、適切な支援をすることが重要だと改めて感じました。



今回の研修では、普段目の前のお子さんの姿に注目しすぎてしまい、逆に何かを見過ごしているかもしれないと気付かされる講義内容だったと思います。頭では理解しているつもりの内容も基礎講義を聴く中で整理され、改めて意識して取り組んでいこうという気持ちになりました。年に一度は摂食の基礎編を研修会として実施してほしいです。

職員感想

アレルギーの原因が、皮膚からのアレルゲン物質の吸収によるものだということを知り、皮膚疾患が見られるお子さんがある場合はその点も含めて注意して見ていかなければいけないと思いました。



エピペンを使う時の注意事項やどのような流れで使用するのか、エピペンを使うことに躊躇しないこと、迷ったら使う等の話を聞いたことや、今回の研修で実際に実践させて頂いたことでイメージを持つことが出来ました。

今回シュミレーションに参加させて頂き、とても緊張しましたが、貴重な経験となりました。お子さんの行動や仕草等、些細な変化にも気付けるよう、日々の細やかな観察を怠ってはいけないと改めて感じました。



“食物アレルギーとは”“アレルギー症状があった場合の対応”についての内容で、資料を基に私たちに分かり易いようにお話しして下さいました。また、アレルギー症状が起こった場合のシュミレーションも行ない、症状の段階を追いながら、対応をみんなで確認したり、実際にエピペンを使用させて頂いたりと、とても貴重な時間となりました。



食物アレルギーについて（エピペン講習会）

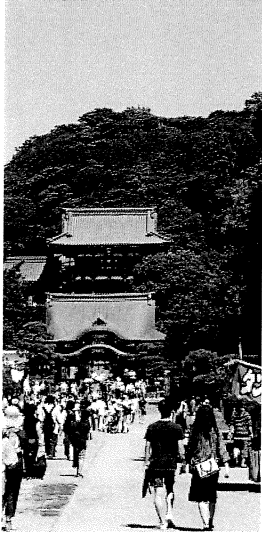
8月9日に千葉愛友会記念病院小児科医師の根津櫻子先生、薬剤師の石黒奈緒先生による食物アレルギーについてのエピペン講習会を行ないました。

～さざんかキッズ・うらのこキッズ 合同研修～
7月12日に、日本歯科大学附属病院 口腔リハビリテーション科の児玉実穂先生による摂食嚥下研修会「食べる機能の発達と障害」を行ないました。発達段階に応じた口腔内の状態や食事の口の動きなど、動画も交えて話して下さいとも分かり易い内容でした。今回学んだことを、実際の支援の中に取り入れていけるよう心掛けたいと思います。

ランブ発

こんにちは。いつも私の文章をご拝読いただきまして、厚く御礼申し上げます。

日増しに朝晩冷え込み、夜は虫の声を聞いて過ごし、秋を感じるようになりました。如何お過ごしでしょうか。先日は、中秋の名月で見事な月が見られました。体調等崩しやすい時期ですので、どうぞご自愛ください。私は、ここ最近、映画を全く観ていないなあと思ひ立ち、9月に立て続けに映画を3本も観てしまいました。結構ランダムに選んだので、統一性はありませんでしたが…。私は基本、映画は一人で観に行くのですが、どうしても「君の瞳がたい」という映画を観たくて、宣伝している時から興味がありました。恋愛映画だったので、私の妻も誘い観に行きました。久しぶりにほろりとさせて頂きました。ちょっとした息抜きになりました。皆様もお忙しいとは存じますが、是非時間を作って行ってみるのは如何でしょうか？

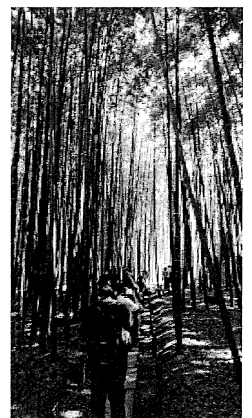


実は、プライベートでは初めてと言ってよいかもしれませんが、「鎌倉」にも行ってきました。(ランブの外支出援ではよく行っておりました) 皆様ご存知の鎌倉駅前の「鶴岡八幡宮」と「源頼朝の墓」と竹藪で有名な「報国寺」の3軒を回り、楽しんできました。休日でしたので、人がとても多く圧倒されてしまいました。鶴岡八幡宮は、3代將軍の源頼朝が暗殺された銀杏の木も自然災害で数年前にすっかり無くなってしまい、寂しい感じではありましたが、とても風情があり、駅前の小町通りは着物を着た女性たちが、闊歩し街を楽しんでおりました。また、「報国寺」は竹藪の寺として有名なようで、鎌倉駅からバスに乗車したのですが、満員状態で、帰りもそこから駅に向かう人で長蛇の列になっておりました。

やはり、千葉県から出ると旅をした感じがして良いものです。映画鑑賞もそうですが、名所巡りもお奨めです。さて、前置きが長くなりましたが、今回は担当者からテーマの設定が無かったため、何をお話しようか、とても迷いましたが、今回は『同行援護事業』についてお話しさせて頂きます。この事業は、平成23年に新たに新設

されたもので、視覚障害の方を対象にした外出支援です。その為、専門的な知識が必要になります。現在は平成30年3月31日まで経過措置という形で、ヘルパー資格があれば支援が可能です。来年度(平成30年4月)からは同行援護研修(一般課程)を受けたいないと、同行援護の方の支援はできない事になっております。当事業所のスタッフは取り敢えず、この研修を受講しているので対応できますが、登録しているヘルパーは受講していません。この研修を受講するには費用がかかるので、簡単に受講してもらうことができないのです。今後事業縮小を余儀なくされるかもしれません。どうぞご理解下さい。因みに私は早々に受講しましたが、サービスマ提供責任者においては、同行援護研修(一般課程)だけでは事足りず、更に(応用課程)という研修も受講しなければなりませんでした。この研修を受講して一つ

気付いた事がありました。我々は知的障害に特化した研修を受講すると、支援の仕方についての講義が殆どなのですが、この研修は、まずはご利用者の方に「情報提供」して下さいという事が前提にあります。普段何気なく



歩いている道でも前方に何があり、誰が通り過ぎた等、細かい所まで情報提供をしていく事が大切だと教えて頂きました。ご本人様たちにとってはとても重要な事で、ハット気付けされた事でした。また、実際に白杖を持ち、電車等にも乗りましたが体験してみると違うもので不安等を感じ、ちょっとした段差も大きな段差に感じ本当に情報が必要なのだという事がわかりました。皆様も是非情報提供をして下さい。現在、この時期は契約更新のご案内をさせて頂いております。契約更新の時期は人それぞれですが、これから12月まで続きますので、期限の切れる方はお早めに当事業所にご連絡頂き、契約更新をお願い申し上げます。今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。



後援会だより

平成29年度の(第23回)総会が無事終了し会員の皆様に心より感謝申し上げます。

6月26日(月)総会後の事務処理、7月24日(月)台帳整理などを行ってきました。

29年度第2回さざんか会

後援会評議員会報告

平成29年8月29日(火)けいよう会議室をお借りし、今年度第2回の評議員会を行いました。

藤澤会長の総会についての謝意に続き、さざんか会宮代理理事長から次のようなお話がありました。

- ①魔法のランプの移転
- ②行田にあるグループホームの隣地に5名のグループホーム新設
- ③この他にも建て貸しホームの話があります。
- ④全国にある100名以上の定員

の障害者支援施設について

なんと全国には100名以上の定員の施設が120か所もあるというお話には驚きました。昨年シヨックを受けた「津久井やまゆり園」の建て替えは、小規模のユニット型になるようですが、こんなにたくさんある?のはー。入所施設から地域移行といってもなかなか、地域で暮らすことが難しくなっているのでしょうか。施設入所者の高齢化も進んでいるようです。のまる泉施設長からは、のまるの改修計画と11月の後援会が主催して行われる講演会について説明がありました。

■事務局から

後援会のしおり、入会申込書、会員継続のお願い、振り込み票などは、けいよう会議室隣の専用ボックスに入っていますので、必要の方はお持ちください。

さざんか後援会主催

講演会のご案内

講師・・千葉県発達障害者支援センター副センター長

田熊 立さん (2回同じ講師です)

東京学芸大学卒、つくば大学大学院卒

さざんかキッズ

11月9日(木)

11:00-12:30

とらのこキッズ

11月14日(火)

11:00-12:30

■どなたでも参加できます。

問い合わせ: ☎047-456-7361

のまる 泉まで

就学前、学齢期、成人期、お困りのことに具体的にアドバイスしていただけます。

